

(様式第5-2)

平成22年8月4日

琉球大学大学院  
理工学研究科長 殿

論文審査委員  
主査 氏名 池田 孝之  
副査 氏名 小倉 暢之  
副査 氏名 堤 純一郎



### 学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	SONG XIAOJING 専攻名 総合知能工学 氏名 宋 曉晶 学籍番号 [REDACTED]	
指導教員	池田 孝之	
成績評価	学位論文 <u>合格</u> 不合格	最終試験 <u>合格</u> 不合格
論文題目	沖縄の景観特性と歴史的地区を中心とした風景・景観づくりに関する研究	
審査要旨（2000字以内）	<p>本研究全体の枠組みは、地域共生のまちづくり、地域景観の保全と再生をテーマに、「自然景観」、「歴史・伝統的景観」、「人とくらしの景観」の統合がある沖縄の歴史的地区を取り上げ、世界遺産及びバッファゾーンの周辺地域と、住宅専用地域の歴史的地区の二つ事例を通して、景観形成の実態、参加型のまちづくりにおく各主体間の関係、役割の分担と連携を図り、問題点と課題を明らかにしていくことである。</p> <p>まず沖縄の景観特性を明らかにし、景観現状の課題を把握する。沖縄県の景観政策及び主な景観行政団体となった地方自治体の景観政策、動向を把握しながら、景観行政の課題を明らかにする。そして景観施策展開に当たって各主体の役割、関係と制度支援仕組みを解明した。</p>	

(次頁へ続く)

その後、景観現状の課題である世界遺産周辺の景観形成について、一体どんな風景・景観づくりの実態、保全活動の実態であるのかを明らかにし、世界遺産周辺の景観形成に具体的な問題点を捉えた。そして、今後の景観形成政策をどういう関係をもっていくのを考察する。続いて、新たな景観法に基づく景観計画の策定プロセスにおいて、住民参加の実態、住民と行政との対応関係の角度から参加型の景観まちづくりの課題を考察している。

本研究は、景観行政団体となった浦添市の取組を取り上げ、代表的な歴史的住宅専用地域の景観形成にあたって、景観計画策定にめぐるプロセスの合理性、住民の主体性と行政の役割、住民と行政の関わり、特に調整不整合に対する調整過程と課題を明らかにしている。今後景観計画を策定する他の市町村にとって意義を考察する。最後、補論として、沖縄県内自然保全・利活用のためのグリーンツーリズムの動向を把握している。そこから、風景・景観まちづくりとしてのグリーンツーリズムの課題、観光開発課題を考察した。以上から、沖縄の景観特性と歴史的地区を中心とした風景づくりのあり方を考察している。

論文の構成は、序章から5章まで6章で構成する。序章は、研究の背景や目的、既往研究の整理から位置づけを明確にした。1、2章では、既存研究及び資料の分析により、沖縄地域の風景・景観の特性と政策動向を把握し、その社会背景を捉える。3章では、2章からの論点を受けて、景観特性を中心とした伝統的風景の形成と保全を論じた。そのため、琉球遺産群及び周辺地域を選択し、そこにおける景観形成の実態を明らかにし、問題点を取り上げた。そして、伝統的風景を中心とした景観形成の要件を明らかにした。

4章では、生活環境の歴史的地区における先駆的事例研究として、仲間地区の景観形成の実態と課題を明らかにしている。5章は、結論として、各章で得た知見から導かれる範囲において、沖縄の景観特性と歴史的地区を中心と風景景観づくりのあり方について考察するとともに、今後の研究課題を示している。補論において、沖縄における自然保全・利活用ためのグリーンツーリズムの動向と課題を探ったものである。

本審査委員会は申請学位論文について資格要件及び内容を慎重に審査した結果、合格と認定する。最終試験として8月4日に実施した公聴会においても23名の参加を得て活発な質疑に答え、多くの視点からの評価が得られた。以上から本研究論文は、本学大学院理工学研究科総合知能工学専攻における博士（学術）の学位論文として認める。

(様式第3号)

## 論文要旨

論文題目：

沖縄の景観特性と歴史的地区を中心とした風景・景観づくりに関する研究

本研究全体の枠組みは、地域共生のまちづくり、地域景観の保全と再生をテーマに、概観した3つアイデア「自然景観」、「歴史・伝統的景観」、「人とくらしの景観」を統合しながら、沖縄の歴史的地区を取り上げ、世界遺産及びバッファゾーンの周辺地域と、住宅専用地域の歴史的地区二つ事例を通して、そこにおける景観形成の実態、参加型のまちづくり手法において、各主体間の関係、役割の分担と連携を図っていく。

まず沖縄の景観特性を明らかにし、景観現状の課題を把握する。沖縄県の景観政策及び主な景観行政団体となった地方自治体の景観政策、動向を把握しながら、景観行政の課題を明らかにする。そして景観施策展開に当たって各主体の役割、関係と制度支援仕組みを解明する。それから、景観現状の課題である世界遺産周辺の景観形成について、一体どんな風景・景観形成の実態、保全活動の実態であるのかを明らかにし、世界遺産周辺の景観形成に具体的な問題点を捉える必要がある。それと、今後の景観形成政策をどういう関係をもっていくのを考察する。続いて、景観法に基づく景観計画の策定プロセスにおいて、住民参加の実態、住民と行政との対応関係、特に調整不整合に対する調整過程の角度から参加型の景観まちづくりの課題を考察していく。本研究は、景観行政団体となった浦添市の取組を取り上げ、特に、代表的な歴史的住宅専用地域の景観形成にあたって、景観計画策定にめぐるプロセスの合理性、住民の主体性と行政の役割、住民と行政の関わりを明らかにする、今後景観計画を策定する他の市町村にとって意義を考察する。最後、補論として、沖縄県内自然保全・利活用のためのグリーンツーリズムの動向を把握する。そこから、風景・景観まちづくりとしてのグリーンツーリズムの課題、観光開発課題を考察することである。以上から、沖縄の景観特性と歴史的地区を中心とした景観づくりのあり方について考察する。

論文の構成は、序章から5章まで6章で構成する。序章は、研究の背景や目的、既往研究の整理から位置づけを明確にする。1、2章では、既存研究及び資料の分析により、沖縄地域の風景・景観の特性と政策動向を把握し、その社会背景を捉える。3章では、2章からの論点を受けて、景観特性を中心とした伝統的風景の形成と保全を論じる。そのため、琉球遺産群及び周辺地域を選択し、そこにおける景観形成の実態を明らかにし、問題点を取り上げる。そして、伝統的風景を中心とした景観形成の要件を明らかにする。4章では、生活環境の歴史的地区における先駆的事例研究として、仲間地区の景観形成の実態と課題を明らかにする。5章は、結論として、各章から得た知見から導かれる範囲において、沖縄の景観特性と歴史的地区を中心とした景観づくりのあり方について考察するとともに、今後の研究課題を示す。補論において、沖縄における自然保全・利活用ためのグリーンツーリズムの動向と課題を探る。

氏名 宋曉晶